

養護学校生の就労体験学習におけるセルフ・マネジメント・スキルの形成
メモリーノートとその活用に向けた指導・支援の試み

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター
松田 光一郎

平成 13 年 1 月に「21 世紀の特殊教育の在り方について(最終報告)」、平成 15 年 3 月に「今後の特別支援教育の在り方について(最終報告)」で示されたように、これからの特殊教育は地域の関係者と共に、多様な障害のある生徒の生涯を見通しながらオーダーメイド型の支援により、彼らの自立や社会参加の実現を目指しており、養護学校等における特殊支援教育においても、従来の特殊教育対象の障害だけでなく、「発達障害」を含めた児童・生徒の自立や社会参加に向け、個別の教育的ニーズに基づいた対応を図る一方、二次的障害への配慮が求められている。

しかし、発達や知的に障害のある生徒の企業就労を推進する養護学校において、生徒の卒業後の就労環境を視野に入れ、約束や予定を自己管理し、自立的な作業パフォーマンスの獲得を指向した効果的な指導・支援の方法は確立されていない。

そこで、高次脳機能障害の補完手段として、勿田ら(2000)の「メモリーノート(Memory Note)」による段階的訓練の研究を基に、発達や知的に障害を持ちながらも就労を希望する生徒の作業遂行力の向上と課題に対する対処行動・補完手段等の獲得に向け、実習前に先行研究の一部を改良して書き分けのための基礎訓練を行い、次にメモリーノートを用いた援助設定を就労体験実習に導入し、自己の行動結果を弁別刺激として行動するセルフ・マネジメントのためのツールとしての機能と効果の検証を目的に研究を行った。

その結果、知的障害と緊張場面での対人行動に課題を持つ生徒に対して、メモリーノートを使った援助設定が有効であることが示唆された。具体的には、ユースホステルでの体験実習において、「作業前ミーティング」の設定と「作業課題選択肢」の導入により、参照・記入行動の自発数及び作業遂行時間の推移から効果的な支援であることが示された。次にホームセンターでの体験実習において、接客行動に向けた援助設定として、案内・取次ぎ行動に必要な「商品検索ツール」の導入と「接客手順」を用いた訓練を職場で実施し、メモリーノートの検索・参照・記入による案内・取次ぎ行動の達成率の推移から接客スキルの形成を指向した支援方法について述べ、セルフ・マネジメント・スキルの形成に効果的な方法であることが実証された。

今後の指導・支援に向け、過不足ない援助に基づく支援計画の立案と卒業後の就労環境で求められるセルフ・マネジメントの形成を指向した支援方法の留意点について整理し、生徒の自立した作業遂行の獲得に向け、「援助」「援護」「教授」の作業連環(望月 1998)による実習計画の必要性と、「正の強化」で維持される実習環境の改善について提示された。